

# 市商工会青年部に大臣感謝状

## ネブタ運行で 被災地と交流

東日本大震災における被災者への支援や交流を行ってきた、市商工会青年部（鈴木大樹部長）が厚生労働大臣から感謝状を受け、5月16日、福島市長に報告しました。これは、東日本大震災の被災者の支援活動に尽力した団体等に対して贈られるもので、青年部は、平成23年と24年に市民有志らとともに岩手県山田町の被災地を訪れ、ネブタ運行やメロン・スイカを振る舞うなどの支援を続けてきました。市民と連携しながら被災地との絆を深めた青年部の活動を紹介します。



（左から）商工会青年部事務局の佐々木睦さん、部長の鈴木大樹さん、福島市長、前部長の奈良信幸さん

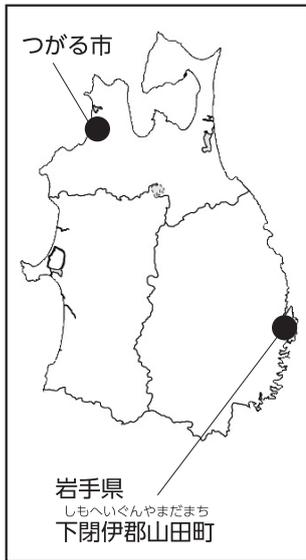


山田町でのネブタ運行（平成23年8月10日）

きっかけは、地元の魅力をPRする作品を競う「ふるさと自慢わがまちCM大賞」。「遮光器土偶発動計画」を制作し優勝を果たした青年部は、平成23年2月3日、「東北ふるさとCMフェスティバル」（仙台市）に青森県代表として出場しました。隣には岩手県代表の山田町立大浦小学校の児童たちが席に着き、世代は違えど地域活性化を目指す同志として知り合いました。それから約1カ月後に東日本大震災が発生。山田町が甚大な被害を受け、大浦小学校が避難所になったことを知った青年部員は、食料や学用品などの支援物資を届け、また、がれき撤去のボランティアにも出向きました。

6月、市ネブタまつり実行委員会と青年部が「山田町にネブタを持って行って子どもたちを元気づけよう」と提案。横町町内会が人形ネブタの貸し出しに賛同し、市建設業協会や囃子の有志たちも加わり、資金調達のための募金活動も行いながら準備を重ねました。

8月10日、総勢73人で現地入り。つがる市特産のメロンやスイカ、リンゴジュースを振る舞いました。夕方から地元住民と一緒にネブタ



山田町立大浦小学校でネブタと囃子を披露し子どもたちと交流を深めた(平成24年9月19日)



囃子に合わせて元気に踊る青年部員と大浦小の児童たち(同上)



交流後、お礼を述べる大浦小の児童(同上)



山田町での周知ポスター



復興を願うネブタ運行(同右)



市産スイカ・メロンの振る舞い(同右)

を運行。復興を祈るメッセージとともに光輝く勇壮なネブタが進むと沿道から大きな歓声上がり、閑散としていた町は活気にあふれました。

翌年9月19日、青年部員ら16人が大浦小学校に小型ネブタを持って訪問。全校児童の前でネブタ囃子を披露し、子どもたちと一緒に跳ね、交流を深めました。子どもたちは大喜び。後日、手作りのお礼メッセージが青年部へ届きました。

奈良前部長は「ネブタ運行の際、家族を亡くされた方から『良い弔いになった』と涙を浮かべて感謝された時はこちらも感極まりました。お互いの絆も深まり、私たち部員の結末も強くなりました」と振り返り、鈴木部長は「今後も支援や交流を続けたい。つがる市の子どもたちとも、例えば金魚ねぶた作りなどを通して交流の輪を広げられないか考えている」と思いを語りました。報告を受けた福島市長は「ボランティア精神が立派。若い世代が活躍してくればつがる市全体の活性化につながるの、これからも頑張ってください」と期待を寄せていました。